

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3610310108 | | |
| 法人名 | 医療法人道志社 | | |
| 事業所名 | グループホーム小松島 | | |
| 所在地 | 徳島県小松島市田浦町近里84-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年7月5日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年12月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>* 隣接している母体の小松島病院との医療連携 (体調不良時などスムーズな受診体制や夜間急変時には病院の医療スタッフが駆けつけてくれる等又、内線電話で状態の報告・指示をうける事により職員の不安を軽減し安定したお世話が出来る) * ターミナル・ケア(家族の希望や本人の状態が、GH小松島でのお世話の在り方で可能な限りさせて頂いている)</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>事業所の理念に基づき、家庭的な環境のもと、利用者一人ひとりを大切にしたい視点で取り組んでいる。管理者と職員は、利用者一人ひとりに寄り添って支援している。同一法人の運営する併設の医療機関と密に連携を図り、日頃の健康管理や急変時の対応、終末期の支援に取り組んでいる。終末期支援に係る協力医療機関との協力体制を構築しており、本人や家族、職員の安心に繋がっている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「家庭の温もりと優しさそして地域と共に」の理念を念頭において、穏やかに過ごせる様支援し温かく見守るように心掛けています。 | 利用者が家庭と同じような雰囲気の中で過ごすことができるよう、職員間で相談して理念を作成している。理念を玄関に掲示するとともに、毎朝の申し送り時に唱和している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の小学校や保育所の運動会に参加したり七夕かざりに来て頂いたりと交流を深め、近隣の事業所の春・夏・文化祭などに地域の方々と一緒に招待して頂いています。 | 日頃から、事業所の近隣の草抜きを行っている。事業所に地域の御興の来訪がある。また、事業所として地域の小学校や保育所の運動会に参加している。馴染みの方が歌や踊り、喫茶等のボランティアに来訪してくれるなど、地域との繋がりをもっている。管理者は、地域で講演の講師を行うこともある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の方が入所されている利点も有り面会や散歩時に声をかけて頂いたりしています。又、認知症の相談ノートなどパンフレットを配布させて頂き認知症やGHへの理解と協力をお願いして行こうと思っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の運営推進会議では現状で困っている事や他の事業所の取り組み方を参考に 意見を出し合い役所の方からもアドバイスを頂いています。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表者、市担当職員等の出席を得ている。市内の他事業所の職員の出席も得ており、互いに情報を共有している。また、会議の議事録を職員間で回覧している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 解らないことや困った事など頻回に足を運ば聴くようにしている。又、DVDなどの知識向上のための資料なども貸して頂いたり、交流会などに参加し現場の実情を伝え、相談し信頼関係を築くように努めています。 | 職員は、機会あるごとに市担当窓口を訪問して相談を行うようにしている。事業所の会議にも参加してもらうなどして連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は25年の11月から開錠の時間帯を決めて短時間の開錠から試みて12月には8:00～17:30までほぼ毎日開放できていましたが今年に入り離脱行為があり 再度施錠するようになりました。現在は午後からの開錠を試みています | 事業所では、身体拘束や虐待を行うことのないよう、職員間で意識付けをしている。また、見守りを中心に支援しつつも、安全確保等の理由から1階玄関を施錠している。 | 利用者の安全に留意しつつも、玄関の開錠に向けた検討を職員間で引き続き行われるように期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者及び職員は虐待について勉強会や資料・研修などで知識を得よう努め利用者の安全と穏やかな暮らしが継続出来るように虐待防止に力を入れている。(身体・言葉・無視・メンタル面)等入浴・清拭・着替時などに身体状態を観察し、傷や内出血などを発見した場合には記録してNslに報告しています。職員全体で話し合い原因の究明と対策を講じています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を活用された、他の事業所の管理者にお話を聞いたり・裁判所へ出向きDVDを閲覧し書類を頂いてきました。今後必要となる利用者様に活用できるように研修会や勉強できる場に積極的に参加したいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分な時間を設け説明し、質問や解りづらい点は無いか聞くようにしている。不安や疑問が後に出てきた時にはいつでも対応する旨を伝えている。また料金等の改正時には十分な説明をして、理解と承諾を得る様にしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置しているが現在投稿は無い。面会時などに職員が声掛けし希望や不満・不安などを伝えて頂ける様に努めている。運営推進会議などに参加して頂き、意見や要望を外部者へ表せる機会を設けて傾聴している。 | 利用者ごとに担当職員を配置している。利用者や家族等が、希望や不安等を話しやすい関係づくりに努めている。また、その情報を職員間で共有し、利用者に寄り添った支援に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | GHミーティングを開き業務内容や意見交換、決定事項などの周知徹底を図っています。又、職員の健康面や業務における不安などもアンケートを取り対応していきたい。 | 日頃から管理者は、職員と会話をするよう心がけている。また、職員アンケートを実施するなどして個別の意見の把握に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回の自己評価表を提出し日頃の勤務状況を把握し各自が向上心を持てる様に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実践者研修は全職員が受講しケアの向上を図っています。院内外の勉強会や研修にも出来るだけ参加しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流会や忘年会・系列内の会議などの機会があれば隣席にしたり相互訪問も橋渡しなど声をかけて頂き相談し易いよう支援していただいています。他の事業所とは運営会議などで交流を図りまた電話などで随時相談など連絡を取らせてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者に対する理解を深めるためにも一人暮らしの方などは訪問させて頂き日々の暮らしの中での不安や困っている事を傾聴するように努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が困っている事や不安を感じている事柄を充分傾聴し、サービス導入後も情報収集に努め情報内容を修正しながら家族間の気持ちのずれや言いにくい要望などに気付かされるように心掛けています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時は本人やご家族の現状を十分に把握出来るようにアセスメントを取るよう心掛けていますが本人は認知症であり家族の希望と相反する場合が多く、見極めが難しいです。初期段階では施設側と家族が協力して本人の不安が少しでも軽減出来るよう又、入所により家族との係わりが希薄にならないように考え他のサービス利用なども活用出来るよう知識の習得に努めたいと思います。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は長い時間を一緒に過ごすと言う意識を持ち利用者に受け入れてもらえるように努めています負担にならない程度のお手伝いなどを通じて「ありがとう」や「助かるわ」「又、お願いします」などの感謝の気持ちを伝えるようにしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入所した事により家族との関係が希薄にならないように施設側からの連絡・報告(良い事も悪い事も)を積極的にしています。相互に支えあい本人を支援して行ける様に家族にも理解を求めています担当職員の氏名や顔写真などを掲示し相談して頂きやすいように努めています | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や家族の面会時にはお茶などを出し気軽に入出りできるような雰囲気作りに気配りし、外出・外泊なども大いに支援しています。お見舞いや買い物、市役所への書類提出時など一緒にかけています。面会時間は制限していません。 | 事業所では、家族や知人の来訪を積極的に受け入れている。少なくとも月1回は家族に来訪してもらえるよう呼びかけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事時やレクリエーション時の席も固定せず利用者の相性やその日の状態に合わせ流動的に変えて出来るだけ和やかな雰囲気作りに努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院などによりGHでの生活が出来なくなった場合など本人や家族の不安を少しでも軽減出来る様に定期的なお見舞いや電話連絡を入れたりしています。又、ご逝去された場合は葬儀に参列し後の法要や初盆などご家族の負担にならない程度のお花やお線香などで気持ちをお伝えするようにしています。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプランの作成時には本人の思いを傾聴し、希望に添ったケアを提供出来る様に支援しています困難な場合は家族と本人を交えた話し合いをする様に心がけています。必要時にはDrやリハビリスタッフに相談し対応しています。 | 入居前の段階で、利用者の自宅を訪問するようにしている。本人の生活や暮らしぶり、環境等を確認し、意向や希望を把握するようにしている。また、家族の面会時には、本人を交えて会話を行い、思いを確認するようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活歴やサービス利用に至った経緯を理解して生活環境が変わった事への不安を少しでも軽減できるように細やかな情報収集を心がけています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者全員のバイタルは毎朝測定しています。表情や、いつもと違う行動など細やかに観察しながら一人ひとりの身体状態を職員間で共有するように心掛けています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画者及び職員全体で利用者や家族のニーズを日々の会話などの内容から収集し、必要に応じてDr・Nsなどの意見を介護計画のプランに取り入れている。 | 利用者との日頃の生活を通じて、一人ひとりの思いや意向を把握するよう勤めている。家族には、あらかじめ生活やサービスへの意向を確認し、職員間で相談し介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護日誌・介護記録があり毎日の申し送りなどで、その時々への対応の工夫や情報等を共有し日々のケアに生かし実践しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 希望時の買い物介助や通院・受診の介助など本人や家族のニーズに合わせて支援している。帰宅願望者には散歩に出かけたり、市役所などへの書類提出支持など一緒に出掛けたりして気分転換を図れるように支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小安幼稚園・小学校の子供達が七夕飾りなど四季の行事時に訪問してくれたり、運動会などにも参加させていただいています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。精神科・整形・眼科・皮膚科など1ヶ月に1度利用者全員の外来受診の支援をしています。 | 近隣の同一法人の運営する医療機関との連携体制を構築している。また、利用者一人ひとりの希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の同行が困難な場合は、職員が代行支援を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週3～4日の隔日に看護師を配置し利用者の健康管理をしています。日々のお世話の中で気付いた事など介護職員から細やかな報告・連絡を取るようになっています。Ns不在時は母体病院との連携により対応しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院必要時にすぐ入院できるような体制をしている。入院中は関係医療機関や看護師・家族・介護職員が連絡を取り合い情報を共有し早期退院に向けて支援している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合には本人・家族より終末ケアの希望があれば当グループホームの指針を説明し、理解と同意、協力体制を話し合える限りの支援をしています。 | 管理者が中心となって、終末期のケアの方針等を職員に伝達しており、組織として利用者一人ひとりの穏やかな看取りに向け取り組んでいる。また、家族には、事前に事業所の看取りの方針を説明している。協力医療機関と密に連携を図りつつチームで支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 初期対応のマニュアルを作成し実践している。病院内・外の勉強会に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地震・津波などの災害時避難場所を職員一同が認識し確認するようになっている。火災時の消火・避難訓練は年2回実施。今年は避難経路変更と利用者さまと共に訓練に参加し実際の対応時間の把握や不都合な事など確認しました。 | 災害時の一次避難場所と避難経路の確認・見直しを行うなどして備えている。また、避難訓練の際、地域住民や消防署員にも参加してもらうなどして、誘導時の協力を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 ユニット1 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や行動パターンを理解し人格を尊重した声掛けを心掛けている。暴言や抵抗がしばしば見られる利用者も居られますが根気強く対応しています。 | 職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの性格の把握に努めたり、人格を尊重した接し方やプライバシーにも留意したケアを心がけている。声かけの際には、利用者が恥ずかしいと感じることのないよう配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉で自己表現できない方には笑顔やうなずきなど表情やしぐさで本人の希望などを把握するようにしている。更衣時の洋服・パジャマをえらんで頂いたり、空腹時に提供できるようにお菓子などその方の食事形態に合わせ用意し支援している。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活してこられたペースが一人ひとり違うので個々に全てをあわせる事は困難ですが入浴やおやつに時間など気分の乗らない時は変更したりして希望に添うよう支援しています。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎月第4土曜日に予約制の移動美容室にてカットやパーマ毛染め等出来るように支援しています。男性の方には髭そり・女性は眉を整えたりお化粧をします。衣類の汚染などはすぐ更衣し清潔保持に努めています。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る利用者には野菜等の皮むき・筋取りなどして頂き「どう調理しようか？」などいっしょに考えてみたり教えて頂いたりしています。又、ミキサー食の方には彩りや食器を工夫し食欲が減退しないように努めています。食事介助の方が2~3名居られるので介助をしながら楽しめるよう努めています | 利用者によっては、食器を洗ったり、食器を運んでもらったりしている。また、野菜の下処理などを職員とともにしてもらっている。ときにはおやつを手作りし、季節感と楽しい時間を過ごしてもらうこともある。ミキサー食にも彩りを意識して盛り付けるなどの工夫が見受けられる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの毎食の食事摂取量と水分量を記録し個々に合わせた食事内容や形態にしています。摂取量の少ない方には栄養補助食品を活用し体力の低下を予防しています。水分の摂取は食事時間以外に9:30・10:30・15:00:夜間(適時補給)し脱水症状の予防に努めています。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声掛けをし口腔ケアを実施している。一人ひとりの口腔状態や能力に応じた見守りや介助を施行し口腔内を清潔に保ち肺炎の予防や嚥下能力の低下予防に努めています。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿・便意の無い利用者の方でも終日紙パンツで過ごして頂いています。訴えの無い利用者の方でも踏み立てが可能ならば(日によって踏み立て出来ない時もある)2～3時間毎のトイレ介助を支援しています。(下痢や熱発時はおしめに変更) | できるだけおむつを使用せずに、トイレでの排泄を支援している。利用者には水分摂取を促し、必要に応じてポータブルトイレを活用するなどしている。利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、支援している。また、臭が残ることのないよう、職員は配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ひとり一人の排便チェックを記録し、こまめな水分補給やヨーグルト・繊維が多い野菜など(サツマイモ)をおやつにしたり便秘予防に努めています。頑固な慢性便秘の方やイレウスの病歴のある利用者には、看護師の管理のもと浣腸や座薬・下剤などで対応しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の気分や体調によって午前・午後と入浴できるように支援している。車椅子生活の方が多いので浴槽内に浸かれ無い方も居ますが車いす用のシャワーチェアと大きな足浴用バケツで安全に入浴を支援しています。 | 家庭的な一般浴槽を使用し、入浴を支援している。利用者が気分ののらない時には、声かけを工夫するなどして入浴を促している。体調不良時等には、足浴やシャワー浴で対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜勤者の申し送り内容などで睡眠パターンを把握し室温やトイレ誘導・パット交換など個別に対応する事により安眠出来る様支援している。日中は適度な運動や散歩・レクなどを実施し夜間の安眠を促していますが、興奮状態が連日に亘り安眠が保てない場合はNs・Dr・家族に相談し対応しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の体調に変化が見られる時や処方内容が変更された時には、申し送りを密にしてその都度DrやNsに指示を受ける。副作用や数・用途確認が必要時すぐできるようにリビングにファイルを作成している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎月の地域清掃やプランターの花の手入れなど室外の作業もお手伝いして頂き気分転換の支援をしたり洗濯物をたたんだりテーブルを拭いてもらったり出来ることを一緒に行う等個々に応じた役割を考えて支援しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 四季折々のお花見やおかぜ公園への遠足など外出機会を設け支援しています。又、地域のボランティアの方や関連病院の職員の協力により近隣の他の事業所の春・夏祭りや文化祭に出かけています。ご近所を散歩したり・HPの屋上に上がったり開放感を感じて頂ける様に支援しています。 | 近隣のショッピングセンターへ買い物に行ったり、地域の祭りや催し、保育所・小学校の行事に参加したりしている。近隣へ散歩に出かけたり、利用者と職員で草抜きなどを行うことで、地域の方とも顔馴染みになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | ユニット1 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 預かり金として事務所内の金庫で個別に保管しています。一緒に売店などお買いものをした時など自分で支払などして頂き、お金が使える安心感を持って貰う様努めています。毎月金銭出頭簿をご家族に確認して頂いています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望があれば電話や手紙の支援はいつでも行なっています。家族にも本人の希望や不穏な状況の時にはいつでも電話等に対応して頂ける様に事前に了承を取って協力をお願いしています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた室温を保つようにし、季節感のある飾りつけや生け花で四季を感じられるように努めています。収納が少ないのでリビングの畳の下を活用し少しでも広く居心地の良い空間にしていきたいと思っています。 | 事業所内は、季節感に配慮した室温となっており、生活のしやすさに配慮している。また、壁面に季節の飾り付けを行っている。リビングには花を飾るなどして、居心地の良い場所となるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 狭い空間の中で一人になれたり2~3人で過ごせるスペースを作り出す事は難しいですが玄関や廊下にソファを置き自由に過ごして頂ける様に努めています。リビングの畳のスペースを少なくして収納を増やし少しでも快適な空間を獲得出来るように考えています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全室個室で畳の部屋もありましたが、現在は全室フローリングになっています。家族や本人の希望又、今後の入居時に畳部屋の希望があれば洗える畳などで対応する予定です。入居時には本人の馴染みの使い慣れた物でお部屋作りを家族にお願いしています。 | 利用者が自宅から使い慣れた家具等を持ち込んでもらえるよう、家族に声かけをしている。ベッドやタンスなどを持ち込んでもらっており、利用者一人ひとりが生活しやすいよう、配置にも工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室が解るように利用者が好きな(選んだ)写真や飾りつけをして工夫しています。トイレ・風呂場や洗面所等の共用スペースにも掲示を工夫しています。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|-------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「家庭の温もりと優しさそして地域と共に」の理念をいつも念頭に置き、家庭的な雰囲気や大切にし穏やかに過せるように温かく見守り支援しています。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の小学校や保育所の運動会に参加したり七夕の飾り付けに幼稚園児が訪問して歌や握手などふれ合いを楽しんでいます。近隣の系列事業所の春・夏・文化祭など地域の方々と一緒に招待して頂いて交流を深めています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方がボランティアに来てくれたり、散歩時に挨拶を交わしたりして馴染みを深めています。又になちしょうの相談ノートやパンフレット等を近隣の方たちに配布させて頂き、認知症への理解と協力をお願いして行こうと思っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の運営推進会議では、現状で困っている事や他の事業所の取り組み方などを参考に意見交換し役所の方からも色々アドバイスを頂いています。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 解らない事や困った事があった場合には、頻回にあしを運び教えてもらう様にしている。勉強会に使用するDVDを貸して頂いたり交流会などに参加し現場の現状を相談したり協力を得ています。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に拘束はしないようにしていますが必要時には話し合いの場を設けご家族と共に安全面と、リスク面などを話し合い説明と同意を求めるとしています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は入浴時や更衣時に内出血や傷など常に観察し管理者やNsに報告して指示を仰ぐようにして原因を究明し対策を迅速に立てる様にしています。虐待は身体的要素だけではなく言葉遣いや職員の不快な態度(無視する)も含まれることを職員全体で認識するように努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度が必要と思われる方が居られるので制度利用出来るように知識や情報を収集し活用出来るように支援したいと思います。研修などにも積極的に参加して行きたいです。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分な時間を設け説明し、質問や解りづらい点など無いか聞くようにしています。後から不安や疑問が出てきた場合は、いつでも対応し説明させて頂く旨を伝えています。又、料金等の改定時などは十分な説明し、理解と承諾を得る様にしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の思いや願いを常に感じ本人の立場に立った対応を心がけている。面会時には職員も家族と十分時間を取り不安な事や要望を傾聴するようにしています。又、面会に来られない時など本人の要望によって電話などでお伝えするようにしています。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は代表者から運営を任されているので職場の環境や業務の見直し、改善など現場と一緒に業務をしながら現場の不備や職員の不安・要望を拾い上げる様に努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年二回の自己評価と管理者評価を行い上司に報告している。管理者は個々の職員の頑張りや、他の者に対する思いやり・勤務状況を評価するように努めている。現場の整備は、棚の取り付けやドア・ストッパーの修繕など常に改善するように努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員研修や講習など受けられるように取り組み支援している。実践者研修にはほぼ全員が受講終了しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 自社の系列事業所との連携や交流は機会があれば積極的に参加するようにしている。他の事業所とは運営推進会議等以外にも電話や訪問したりして情報交換や色々な対応の仕方や考え方を参考にさせて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に家庭訪問させてもらったり、見学に来て頂いて家族と一緒に他の利用者とお茶を飲み短時間でも雰囲気など共有して頂くようにしています過去から現在に至る生活史の情報を収集して本人や職員の不安を軽減するように努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 細やかなアセスメントを取るようにし一番困っている事柄や要望などを傾聴し家族への連絡や報告を密に行うようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 細やかなアセスメントを取るよう心掛けていますが本人は認知症でもあり家族の希望と相反する事柄も多く見極めは難しいです。2Fの利用者は入居年数も長期の方が大半なので要望の変更や現在のレベルに応じた支援が出来るか家族と一緒に考え対応していきたいと思っています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は長い時間を同じ空間で共に一緒に過ごすという認識を持ち利用者に受け入れて貰えるように努めています。負担にならない程度に掃除したり洗濯物を畳んだりして役割のある充実感を感じて頂き職員は常に感謝の言葉かけをするようにしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との絆が希薄にならないように、細やかな連絡を取り長期の面会がない場合など電話で話をして頂き、精神上的の安定を図っています。又、夜間急変時など家族の協力を得る事により職員と共に利用者を支えていく理解を得る様にお話しさせて頂いています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人知人の面会時などお茶などを出して和やかな雰囲気作りに気配りし、外出や外泊など大いに支援しています。お見舞いや、市役所への書類提出時など一緒に出掛け見慣れた小松島の風景を懐かしんでもらったりしています。面会時間の制限は基本的にはしていません。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の相性や認知の度合いにより出来る事を協力して頂き清掃や、食事時の呼びかけなどお手伝いして貰っています。体調不良時などは、お部屋にお見舞いなど仲の良い利用者同士で行き来しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|--|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院した時など定期的にお見舞いに行き利用者及び家族に安心感を持って頂くように努めています。又、ご逝去された場合法要事や初盆など家族の負担にならない程度のお花やお線香など持参し気持ちをお伝えしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の思いや、意向を職員全体が把握出来る様に日々業務の中で意見交換や発見、気づきなど情報の共有に努めています。困難と思われる事柄などDr・やNs・他職種(OT/PT)に相談し意見を聞き検討して行く様にしています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活歴や入所に至った経緯など家族やケア・マネ等から情報を細やかに収集して生活環境が変わる不安を出来るだけ軽減するようにしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとり一日の過ごし方が違いますがバイタルなどは毎日定時に測るようにし、その日の体調や不穏状況に合わせてお手伝いや出来る事を一緒にするよう努めています。小さな発見や気づきがあった時などは職員全体で共有するようにしています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の生活の中で気づいた事や家族の思いや意見などを基にし本人の要望などを取り入れた介護計画を作成するようにしています。必要に応じてDrやNs他職種にも意見を聞くようにしています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の介護観察記録に記載して職員間で情報の共有をしながら定期的に又、臨機応変にカンファレンスを行い介護計画を見直し評価を実施しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 希望時の買い物介助や通院介助・往診依頼などそのときの状況に応じ臨機応変に支援しています。帰宅願望の強い利用者には散歩に連れ出したり家族の協力の上外出など支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域交流の一環として子安幼稚園や小学校の運動会に参加したり、七夕の行事など園児が訪問してくれて飾りつけや歌や遊戯を披露して交流を図っています。近隣の他事業所の祭りや文化祭に利用者も参加し、カラオケやゲームなど一緒に楽しんでいます。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援しています。又、隣接する系列HPへの外来受診や夜間急変時の対応も安心して頂ける連携をしています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週三日～四日の隔日勤務の看護師を配置しています。(勤務体制は状況により、臨機応変)日々のお世話の中での状態変化や異常(いつもと何か違う)を感じ取り出来るだけ早い内にNsに伝え何事も早め早めの受診体制を取って支援しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | やむを得ず入院に至った利用者に対して入院によって環境が変化した事による、心理的なダメージを最小限にする様定期的なお見舞いや入院先での情報収集に努め病院と連携を持ち相談しています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合にはDr/Ns・管理者は家族への病状説明と当GHでの指針などを十分に説明し同意があればターミナルに向けてのケアに取り組んでいます。状態変化のつど家族に連絡し協力と意向や不安事など傾聴するようにしています。管理者は、事業所の勤務体制や職員の不安な気持ち等も家族に理解して頂き共に終末に向けての支援が出来る様に働きかけています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故発生時の初期対応のマニュアルを作成し実践しています。発生に伴い臨機応変や適切に対応していく実践力を養う為に、より細やかなマニュアルや連絡・報告・確認の徹底をしていく。夜間帯の発生時には管理者および他職員は協力体制が取れています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消火・避難・防災訓練を年二回消防署立ち会いのもと実施しています。今年は実際に利用者の方々と一緒に訓練しました。一緒に避難することで困難な事柄や不備な点が解りました。改善や工夫をし改善して行こうと思っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や行動パターンを理解し人格を尊重した声掛けをする様に心懸けています。暴言や介護に対して抵抗がしばしば見られる利用者も居ますが根気強く穏やかに対応しています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言語障害のある利用者は居ませんが、今の気持ちや言いたいことなど十分表せない方には視線を同じ高さに合わせ手を握ったり、背中を擦ったりして安心感を感じて頂くようにしています。その日の服装など出来る事は自己にて選んでいただく様にしています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 散歩や売店などに買い物したり、皆で歌を歌ったり書くことが得意な方は徳島新聞の鳴潮欄の書き写しなどをして自由に過ごされています。入浴時間なども午前・午後とその日の気分に合わせられる様に配慮し支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎月第四土曜日に移動美容室にてカットや毛染パーマなど出来る様に支援している。毛ぞりや眉を整えてお化粧する楽しみを支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | テーブルを拭いたり、食器を洗ったり出来る方は当番を決めて(取り合いになる為)後片づけをしています。毎日カレンダーを見て「今日は誰々やなあ」と自分で確認したりしています。ミキサー食やキザミ食の方には彩や食器などを工夫し食欲が減退しないように配慮しています。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの毎食摂取量と水分量を記録し食事内容も個々に合わせた形態に配慮しています。梅干し/味噌・ふりかけ等の嗜好品も常備してあります。摂取量が少ない時には | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内の清潔を維持する為に毎食後の口腔ケアを支援している。一人ひとりの口腔内の状態や出来ない処をお手伝いしています。歯のぐらつきや入れ歯の不具合があった時は歯科の受診を支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間誘導の他に利用者の行動や素振りを見て声掛け誘導をしています。ストーマの方もいますがトイレのたびに確認し本人が不快にならない様に細目に気配りし対応しています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の食事に根菜や繊維質の多い野菜などを摂取出来る様にし、散歩や体操などで予防に努めています。おやつにバナナやヨーグルトを好んで食べられる方も居られます。頑固な便秘にはDr・Nsの指示により漢方薬や下剤・浣腸などげ対応しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 午前中の比較的気分の落ち着いている時や、便失禁時・外出後など臨機応変に対応していますが基本的に午後4時までの(職員数が減る)時間内に利用者の気分に合わせ入浴支援をしています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 毎日の申し送りで一人ひとりの睡眠状態を把握し昼夜逆転に拘らず、睡眠不足の状態であれば日中においても横になり休んで頂いている。消灯時間を決めず見たいテレビがあれば周囲に迷惑が掛からない程度に自由に過して頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が服薬内容を把握し、変更時には申し送っている。不安時はNsに電話連絡し確認している。状態変化があれば記録し、病院との連携で報告・指示・往診等スムーズに対応できる支援体制をしています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の気分や体調に合わせ掃除機かけや食器洗い(交代制)洗濯たたみなど役割を持って頂いています。一緒に昔話をしながら楽しくお手伝いしてくれています。花の水やりなど外に出てする作業などは気分転換にもなり喜ばれています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気分転換や四季を感じて頂く為に時々のお花見や色々な行事(文化祭・お祭り・運動会etc.)に積極的に参加して、時には地域のボランティアや関連施設の職員に応援して頂き、出来るだけ多くの外出が出来るように支援しています。又気持ちが不安定な時に家族の協力を得てドライブや買い物・お墓参りなど個別の外出なども支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|--|------|------|
| | | | ユニット2 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は、預り金として事務所の金庫内に個別に預かり買い物時には個々の能力に応じ自分で支払って貰ったりお金を使える安心感を持って頂ける様にしています。毎月、金銭出頭簿をかぞくのかたに確認して頂いています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望や要望がある時には手紙・電話などのやりとりを支援しています。家族にも本人の希望時や不穏な状況事には、いつでも電話などに対応して頂ける様に事前に了解を得て協力して頂いています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 二階でもありリビングは日当たりが良、く明るい空間です。季節の花などを活けたり利用者の写真や作品などを飾り和やかな雰囲気作りに努めています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 狭い空間ではありますが畳もあり、気が向いた時など横になったり冬にはこたつを出してくつろいで頂いています。二～三人掛けのソファでは気の合った者同士で仲良くお話しされています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畳とフローリングのお部屋があります。広い押入れ収納があります。入居時には家族の方に出来る限り本人様の馴染みの家具や写真など使い慣れた物でお部屋作りをして頂けるように説明させて頂いています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご自分の居室が解りやすい様に飾りつけをしたり好きな写真を貼ったりして工夫しています。共用のトイレや洗面所なども解りやすく表示するようにしています。 | | |